

少年科学文化会館の移転再整備について

1 施設整備の方向性

(1) 九州大学六本松キャンパス跡地（以下「跡地」という。）**北側ゾーン東側敷地に青少年科学館※¹を整備する。**

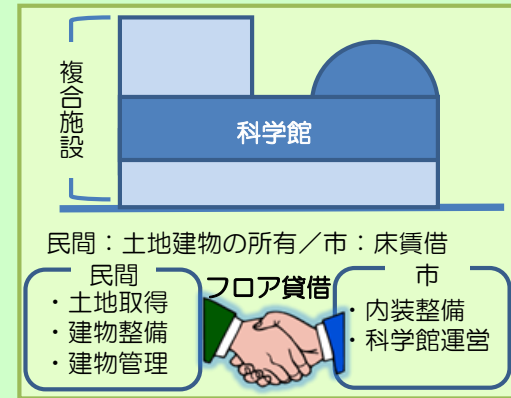
(2) 科学館の整備にあたり、九州大学六本松キャンパス跡地利用計画（H19.5福岡市策定）に示されている**商業、業務、交流及び居住等の機能と一体的に整備**する。

(3) また、**事業費の平準化のため、施設の一体的な整備は民間事業者が実施し、市は資産(土地・建物)を所有せず、賃借入居**する方向で進める。

今後、民間事業者の意向把握や概算事業費の試算など、賃借入居の実現可能性を詳細に検討し、公募の開始までに決定する。

(4) 建物は民間事業者による整備とするが、**建物内部の科学館部分の諸室の設置や展示物の製作・据付等の内装整備及び管理運営は市が実施することとし、その事業手法は、民間/ノウハウの活用も視野に基本計画で決定**する。

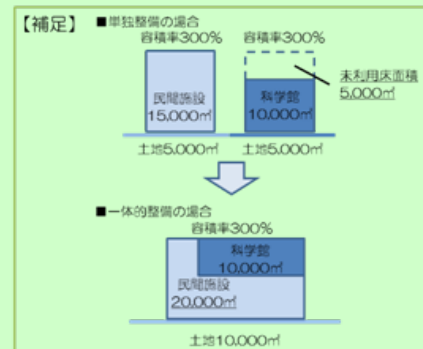
¹ 少年科学文化会館の移転再整備に向けて、平成24年10月に策定した「福岡市青少年科学館基本構想」に基づく施設。



2 民間事業者による施設の一体的な整備

「九州大学六本松キャンパス跡地まちづくりガイドライン」（H23.9UR都市機構策定）では、跡地北側は複合施設の整備が想定されており、一体的な整備とすることで、**効率的、効果的な施設整備が期待されるとともに、よりよいまちづくりにも資**することができる。

科学館としてのメリット	まちづくりのメリット
（施設計画） ◎1フロアの面積を広くすることができ ・より効果的な諸室配置や動線とすることができる。 ・施設を利用する子どもを見守るうえで、目が届きやすくなる。 ・階移動を少なくできるため、ユニバーサルデザインの点で望ましい。 ◎民間施設との回遊性が高まることで集客効果が期待できる。 ◎駐車場の共有化により、土地利用の無駄が省けるとともに、利用者にわかりやすい車両動線とすることができる。	（景観形成） ◎まちづくりガイドラインの趣旨に適った施設整備となる。 ◎統一感のある景観を形成しやすい。 ◎駐車場や車両動線が統一され、ゆとりのある街区の形成ができる。 （高度利用） ◎多様な機能の誘導に向けて、容積率を最大限活用することが可能となる。



3 事業者公募

民間事業者による施設の一体的な整備が可能となるよう、以下の考え方に基づいた公募を実施できないか、UR都市機構と協議していく。

民間事業者による施設の一体的な整備ができない場合には、市は、東側敷地の東側半分を取得して、科学館を整備する。

【公募にあたっての考え方】

※具体的な方法は、公募開始までにUR都市機構において決定される。

- ①UR都市機構が、施設を整備する民間事業者を公募により決定する。
- ②公募の実施に当たり、市は科学館として必要な施設の性能を示すとともに、公募の審査において、応募者が提出した計画書がその性能を満たしているかを確認する。
- ③事業者決定後、市と事業者で協議し、科学館部分の整備の内容、条件等を市及び事業者の双方が確認、合意した上で、民間事業者が施設を一体的に整備する。

4 当面のスケジュール

